

武蔵野市第五期長期計画・調整計画市民会議
(第4回)

議事録 (要旨)

日時：平成26年7月17日(木)
場所：武蔵野市役所 412会議室

1. 開会（午後7時2分）

2. 前回会議録の確認

（委員による確認の後、議事録（要旨）について確定した。）

【A委員】 市長が政策の柱に挙げている平和政策について、今の路線を堅持しつつ今後も重視してほしいことを、前回会議の内容となりますが、一言つけ加えさせていただきたいと思います。

（今回（第4回）議事録の冒頭に、A委員の平和政策についての一文を入れることが他の委員から了承された。）

3. 議事

（1）「都市基盤」分野について

（資料1「第4回検討内容について」の都市基盤分野についての概要を説明した。）

【B委員】 武蔵野市の水道水は、地下水の比率が高いのですね。井の頭公園の池の水位も下がっていると聞いています。地下水を守っていかないと、水道水を守れないし、井の頭公園の池も干上がってしまいます。地面が露出していけば、そこから雨水が地下に浸透して地下水のもとになりますが、地面をコンクリートで固めていくと、雨水は下水道に流出します。雨水浸透ますなどで雨水を地下に戻すことを強く進めていかないといけないのではないかと考えました。

【C委員】 5月にワークショップに参加したのですが、都市基盤分野では、自転車専用道路の設置と電柱の地中化についてが多くของทีมで話し合われました。自転車専用道路のためには、道路の幅を拡張する必要があります。両側の沿道の住宅や店舗などを全て退居させ、それなりの対価を支払う必要も生じます。「地域生活環境指標」を見ると、自転車事故発生件数は年々減少しています。この数字を見る限りでは、わざわざ自転車専用道路をつくる必要はないのではないかなと思いました。市では「自転車ルールを学ぼう」という安全利用の講習会も行っています。自転車対策は、安全な走行環境の整備よりも、マナー運転の啓発ではないでしょうか。

武蔵野市の駐輪場、特に吉祥寺の駐輪場は、武蔵野市民よりも、近隣の市民や区民の利用が圧倒的に多くなっています。相互利用の観点から否めないことかもしれませんが、市民税を払っている武蔵野市民に、駅から近い駐輪場を利用する優先権があってもいいのではないかと思います。

【D委員】 駐輪場は、「NEXT-吉祥寺」プロジェクトの目玉というか、効果が実感できた成果だと思います。私が吉祥寺に住み始めたばかりのころ、吉祥寺大通りの西友から吉祥寺駅まで歩道に自転車の駐輪場があり、歩行者の多い時間は歩きにくい印象がありました。

一方、「NEXT-吉祥寺」プロジェクトの「魅力ある商業空間」、「安全で歩いて楽しいまち」については、多少首をひねるところもあります。伊勢丹が撤退し、吉祥寺にあった個性的な中小の商店も徐々に姿を消しています。南北自由通路の開通セレモニーでは、たくさんの人が集まりましたが、集ま

った人たちが吉祥寺はいいまちだと感じた様子は見えてきませんでした。逆に、目玉のイベントが往來の危険を理由に一部中止されるなど残念なニュースもありました。折に触れて、もう少し複合的にリンクさせる仕組みづくりをしていくことで、もっと魅力的なまちづくりが発信できると思います。

【E委員】 半月ほど前に、鎌倉市で生活保護窓口に衝立を立てて窓口をふさいでいたというニュースを見て少し驚きました。鎌倉市というと、武蔵野市と同じく大変イメージのいい自治体です。その鎌倉市の歳入が最近非常に減少しているのです。鎌倉市と財政の構造が違っても、武蔵野市も歳入の減少という問題を抱えている点では同じです。武蔵野市の財政力指数は、平成 18 年度をピークに下落しています。長期的な歳出の抑制を考えていく必要があります。今、大型施設の建てかえで一番切迫していると言われている公会堂は、本当に建てかえる必要があるのでしょうか。建てかえるなら保育所や特養を併設する、場合によってはオフィスやマンションとして一部を売り出して、歳入も稼ぐことも考えたほうがいいのかではないでしょうか。

また、これは長期計画にはなじまないと知りつつ問題提起なのですが、東日本大震災による津波で家が流された後、自分の土地であっても家を建てることができないという問題が起きています。武蔵野市は、東京直下型地震が来て大規模な火災や倒壊が起きた際、密集地を完全にもとどおりにするのかどうするのか、平時のまちづくりではない非常時のまちづくりも、平素から考えておく必要があると思います。

【F委員】 自転車のマナー講習会をされているようですが、高齢者から見ると怖い乗り方をする子どもが多いので、例えば小学校高学年の児童や中学生に、講習を受けてもらって、武蔵野ライダーじゃないですけども、格好いい腕章でもあげて、子ども同士で自転車マナーを教え合うようにしてはどうでしょうか。

また、武蔵野市役所は駅から遠いので、駅から市役所、市役所から駅のような片道利用できる貸し自転車のシステムをつくると、通勤される方にもいいのではないのでしょうか。市役所に来られる方は一定数おられるでしょうから、ある程度の需要は見込めると思います。

電柱地中化は、多額のお金がかかると長期計画の 58 ページに書いてありました。景観がいいにこしたことはないのですが、狭隘道路でも緊急車両が入れるようにすること、車が来ても人が安全に歩けるようにすることを優先していただきたいです。

武蔵境の南口に 60 メートルぐらいのマンションが建ったのですが、ビル風が吹いて、高齢者や自転車の方に非常に危険です。三鷹駅北側にあるツインタワーにも風の問題があるのではないかと思います。強風による事故が起きる前に、風を分散させる工夫や対策をしていただきたいと思います。

【G委員】 自転車に関しては、私は、子どもを持つようになってから、道路交通法そのものを小さいうちから教えていったほうがいいんじゃないかと思うようになりました。子どもは、車がどういうルールで動いているのかをわからないで動きます。危ないという認識も何もない。確かに、注意しなければいけないのはドライバーの側ですが、事故に遭って死んでしまうのは子どもたちです。自分の身を守ることは早目に教えていいのではないのでしょうか。そして、その延長線上で武蔵野市発行の免許証を持たせたらいいのではないかと思います。今、Fさんがおっしゃった、高学年の子が低学年の子に教えるというのは、考えてもみなかったもので、なるほどなと思いました。

五日市街道は、私でさえ自転車で車道を走るの怖いので、自転車専用道路がほしいと思います。

しかし、武蔵境の南口は自転車専用道路が整備されていますが、自転車はお構いなしに車道を走っていて、自転車専用道路を走りません。だから、効果的にはどうなのかなと思います。30メートル道路では、自転車道をつくるために、大事なクスノキを次々切り倒していました。それよりは、低い灌木のグリーンベルトや、フェンスにつる性のものをはわせるほうが、よっぽど幅の確保ができます。

狭い道路では、どんな車が走ってくるかわからないので、子どもを守るために、少しでもショックを和らげられる方法は何かないかと考えて、電柱に寄るんです。電柱を地中化するのであれば、かなり強固なガードレールが欲しいです。

【A委員】 自転車利用者は、近年随分ふえたので、長期計画・調整計画としても考えていかななくてはいけないと思います。

私は、子どもというより中高生以上の大人の運転が怖いです。自転車講習を受けても、自動車免許を取ってなければ、ルールの意識も薄れています。車道の右側を走ってくる自転車などは、左側を通る人と正面衝突ですから、本当に危険です。大人の交通ルール遵守に重点を置くべきです。

駐輪場も考えていかななくてはいけないと思います。歩いて楽しい駅前商店街をつくらうとしたある地方都市では、車社会だったために郊外型のお店に人が流れて、商店街は閑散としてしまったそうです。歩いて楽しいまちづくりは、駅前商店街の利用者がどういう手段で集まっているのか、どういう手段を望んでいるのかを調査した上で考えていかななくてはいけないと思います。

【H委員】 私は市民委員になるまで、まちづくりに関する認識がほとんどなかったのですが、資料にある事業の一つひとつに驚いたり感心したりしていました。

武蔵野市は、市民が中心になってまちづくりをしていくという考え方だと思います。公園づくりのワークショップでも、市民がビジョン策定の過程を支援しています。ただ、「多様な主体の参加を得ながらまちづくりを進めていく」という文言がちりばめられてはいるものの、市民参加している人たちはごく一部です。市民参加でまちづくりをしていくという理念に対して、市民参加を推進する施策に乖離があります。

ユニバーサルデザインには、全てに高齢者とか子どもは考慮されているのですが、外国人という視点がありません。市内には2,400人も外国人がいます。災害時避難場所に外国語での標示をするとか、命に及ぶようなことがあったときに守られる配慮が大切です。

【I委員】 武蔵境の北口広場は、工事が本格化しています。北口の商店街は100店舗ほどあるうち、個人商店は2割ほどで、残りは新宿でもよく見るようなチェーン店ばかりになりました。幾らきれいになっても、何のためのまちづくりなのか。行政がどこまで主体的に関与して、まちをつくっていいのか不明です。土地所有者の意向や、まちの理念、我々の意見が一体となって進んでいくのは非常に難しかりうと思います。どういうまちづくりをするのか、わかりやすくしておかないと、5年10年の短いスパンで旗を上げたところで、でき上がるのは20年30年先で、そのころには、まちもさま変わりしています。多額のお金もかかります。それを毎年予算を組んで税金で賄うのですから、大変な議論を要します。皆さん、頭を使っていろいろなことをやっつけていってほしいので大変だなと感じています。

【J委員】 私が武蔵野市に越してきて初めに驚いたのが、やはり放置自転車の少なさです。特に吉祥寺は、にぎわっているまちなのに、自転車が全然ない。放置自転車対策に重点を置いていて、アンケー

トでも満足度が高いことを後で知って納得しました。

私は武蔵野市内でマナーの悪い自転車に遭遇したことはないのですが、先ほどFさんがおっしゃった、子どもたち同士で教え合うというのはすごくいいと思います。大人も、講習を受けて資格証みたいなものをもらえるのであれば、その資格証のよさをもっとアピールしていいと思います。私は、学生時代は自分自身の危険や周りへの迷惑も省みずスピードを出して走っていました。でも、車の免許を取ると、自分みたいな運転は、やっぱり嫌です。違う立場になって気づくんです。また、目が不自由な人や車椅子の人はどのように思うかなど、自分がその立場に立ったときどのように思うか、ということを体験できる講習にしてはどうでしょう。その上で、資格証を持つことがステータスになるといいかもしれません。例えば、物が安く買えるなど地域通貨のようなメリットも付加されれば、資格証を持つことの自負も出て、自転車運転のマナー向上につながると思います。朝の通勤・通学の時間帯に、時間がある人が10分間でも外に出て道行く人たちにあいさつをする「あいさつ運動」は手軽な市民参加として話を出させていただきましたが、そういった試みも自転車マナーの向上に結びつくように思います。

「まちづくり条例ガイド」を見て、策定の段階から市民の方の意見を取り入れているということにびっくりしました。でも、実際に市民からどういう声が出るかわからないし、幾ら対策調整会を置いても、その場しのぎの対策になります。10年20年かけてやっていくことに市民の方からの声を吸い上げるのはとても大事だし、大変だし、その姿勢はありがたいのですが、一部の人たちや、その地区に住んでいる人たちの意見を聞くだけでいいのかなという思いもあります。

中央地区と境地区と吉祥寺地区の3つの地域について、「地域の特性に合ったまちづくりの推進」というのは、私は難しい気がします。吉祥寺は商業ということでドーンと打ち出せますが、三鷹の中央地区の特性って何だろうと思ったときに結構迷うと思うんです。「地域の特性に合ったまちづくり」という言葉に無理にこだわることはないと思います。各地区をどう結びつけていくかという視点を置くほうがいいです。それぞれの地域をつないでいく仕組みができれば、大きな意味でのまちづくりや都市基盤に発展すると思います。

【B委員】 自転車のマナー啓発では限界があるので、厳罰化をしていくしかないというのが私の偽らざる感想です。どんなに啓発指導しても放置自転車はなくなりません。警備の人がいるところには誰も自転車を置きませんが、警備の人が持ち場を動いた途端に自転車が置かれる。置いちゃいけないことを頭ではわかっているけど、ちょっとだけの駐輪ならいいじゃんという気持ちなのですね。1秒であっても1時間であっても、置いてその場を離れたら放置であって、それが禁止されているということがわかっていない。

自転車が車両であることをわかっていない人も多いです。すごいスピードで歩行者の間を縫って走っていく。そんなにスピードを出すんだったら車道を走ればいいんです。私はいつも車道を走っています。そのほうが安全だし、スピードを出せます。歩道では、ゆっくり走るか、押して歩きます。自転車は歩道ではなくて車道を走るべきなんです。曲がるときには何度も後方確認をしないといけない。そういう基本的なことがわかっていないし、習慣もないから、平気で道の右側を走ったりする。

ただ、自転車の場合、車みtainな免許制度がない。警察も違反すべてを摘発していません。でも、それくらいのことをやらないとだめなんじゃないですかね。自転車にひかれて高齢者が亡くなったら、保険にも入っていないから、自分で億を超す額の補償をしなくてはいけない事態にもなっています。マナー啓発だけでは限界があると思います。

【C委員】 車両は左側通行というのが日本の決まりなので、自転車も車と同じ左側を走らないといけないし、私もなるべく車道を走るようにしていますが、バックミラーのない自転車は、車と同じ方向を走るよりも、車と自転車が向かい合って走るほうが、車の動きがわかるし安心できるのではないかと思います。

道路整備では、五日市街道や井の頭通り、女子大通りは地域間を結ぶ幹線道路であることから、都に事業化の要請を行っていくということが計画案に載っていました。女子大通りは、人と人がすれ違うことができないぐらいに狭いので、これは別にしても、五日市街道や井の頭通りは、土日に渋滞する程度で、特に道を広げるとか整備の必要性を感じません。多額の税金を投入して整備しなければいけない理由を具体的に提示していただきたいと思います。

進化するまち「NEXT-吉祥寺」プロジェクトの、「魅力あるテナントの導入」は、基本的には大家とたな子の契約関係におけることだと思います。私は吉祥寺のサンロードはもっとすてきなショッピング街になってほしいと思っているので、魅力あふれる個性的なテナントの誘致に、市がどのようにかわっていくのか、具体的な案を示していただきたいと思います。

【D委員】 自転車の講習会は、たしか小学生向けに制度があって、修了証みたいなのを渡しています。大人向けも、講習会に出て認定者になると、駐輪場定期利用の抽選確率が上がるとか、自転車の整備と保険についても半額の補助金が出るというので、新聞で評価されていました。こういうところはもっと進めて、どんどんよくなっていけばいいなと思って見えています。

まちづくり条例では、法政跡地マンションの件で、住んでいる方の住環境に対する強い思いと、事業者の利益の関係とで、随分もめている中を市は調整されていました。その後に行える下水道改善施設の話も同様ですが、やらなくてはいけないものに幾らお金がかかるのか、もっと市民と問題を共有すべきです。今回も配布された武蔵野市独自のナチュラルウォーター「水・好き」も、おいしいので、私はすごく好きですが、飲むたびに、コストは幾らかかっているのかが気になります。水道管の更新とともに水道料金も徐々に値上げをせざるを得ないのはわかりますが、事業が本当に効率性を持ってやっているのか、疑問を抱くことがあります。

【G委員】 自転車は、厳罰化や車両とかいうことよりも、危険なものなんだという認識をさせるべきだと思います。厳罰化というのは、どこまで言うのかわかりませんが、必要だとは思いますが。でも、小学生とかに「これは車両なんだよ」と言っても、車両という言葉自体にぴんとこないと思う。あとは、大人のマナーの部分も大事ですね。

都市基盤は、いろいろやってくださっているのはわかるんですが、読んでいて難しい。例えば「景観まちづくりの具体的な展開」は、どう具体的に展開されたのかが見えてきません。

公共施設のあり方では、マンションができるなどして、子どもたちの密集している地帯と、そうでない地帯との差が大きくなっています。今、五小は過疎化していると言ってもいいほど、子どもの数が減っています。境方面にスクールバスみたいなものを出して、五小の施設を利用していく考え方があっていいと思います。この国全体で子どもがそんなにふえていくとも思えないし、この国が本腰を入れているとは思えない今、公共施設は、要らないのではなく、有効活用が大切です。長寿命化の考え方を進めていただきたいです。

随分前に、私は当時の保育課に、小学校の中に保育所をつくったらどうですかという提案をしたことがあります。そのときの武蔵野市は保育所をつくるという発想が全然なかったもので、「それは無理です

よ」という話でした。ところが、その1年後に品川区が小学校の中に保育所をつくったと聞いて、私はすごくがっかりしました。今後建てかえるときは、複合施設ということを積極的に考えてください。

【F委員】 住宅施策に、コストの縮減や公平性ということが繰り返し書かれています。昔から、精神障害の方たちの長期入院をどう減らしていくのかという大きな課題があって、国は、退院後の居場所がなくて入院継続せざるを得ない、いわゆる社会的入院の人たちを退院させて、地域生活に移行してもらおうという計画を立てましたが、頓挫しています。障害があって、いろんな生活や活動をする上で不利益をこうむりやすい人に対する合理的な配慮がこれからの施策には求められます。そういう人たちが地域で暮らしていくために、武蔵野市は何を支援できるのか、住宅施策とあわせて意識していただければと思います。

先回もお話ししましたが、境地域は市に唯一の国際交流協会があり、外国人もたくさん住んでいます。地域のまちづくりの1つのビジョンとして、ユニバーサルデザインを率先して進めてはどうでしょうか。また、境南町は、地域防災懇談会という組織があり、コミセンには自主防災組織があって、日本赤十字病院とともに、防災活動に熱心に取り組んでいます。防災訓練や啓発をしていく上でも有利な場所として、市民と行政に病院も手をつないだ1つのモデルにする。うまくいったらほかの地域にも広げていくということにすると、地域ごとの特性が生かせるのではないかと思います。

それと、これは長期計画にはなじまないんですが、境の南口のバスロータリーを1区画南に移して、プレイスの北側とつなぎ、費用はかかりますがタクシープールも地下化して、駅前を緑の公園か広場のようにしたら、すてきだと思うんです。五期の長計では計画もされていないので、難しいと思いますが、長期計画には、そういう夢みたいな話を語ることがあってもいいのかなと思っています。

【総合政策部長】 自転車は確かに大変難しい問題です。マナーも大切ですが、まずルールを守ってほしいと考えているところです。

小学校での自転車講習会では、D委員にご紹介いただいたように、全員に免許証のようなものをお渡ししています。

電柱の地中化では、電柱をなくすために、トランスボックスという大きな地上器を置く関係で、一定の広さがないと、技術的には難しいという事実関係があります。

(2)「行・財政」分野について

(資料1をもとに、基本施策とキーワードの紹介をした。)

【A委員】 先日、子どもプランの傍聴に行ったところ、平成28年は0歳以外は不足を生じないという予測がされていました。私たちは、市民会議で保育園が足りないという話をし、市議会に陳情し、署名を集めてきましたが、市民の意見を聞いても政策に反映されていないのかなと驚いているところです。

今、3歳児の壁に悩み、自分自身の仕事と保育のことでかなり追い詰められて、保活自体をやめるというメンバーもいます。市のプランには、自治体職員の経営感覚ということがうたわれていて、それが時代のニーズなのかもしれませんが、そもそも公共的な事業に儲かる話は少ないのです。困っている人たちの痛みを敏感であり、寄り添える施策を組み立て、適正な予算を執行できる能力こそが、公務員には必要です。公務員の方の資質をもう一度考えていただければと思います。

【E委員】 まず、財政援助出資団体についてです。

「武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」の3ページに、「財援団体の自立性」を求め、「市は人的資源・財政的支援などの関与を必要最小限にする」とうたっています。財援団体の自立というのは、日本が高度成長のときの発想です。一方で、武蔵野市には、近隣の自治体よりもはるかに多い10もの出資団体があって、事業の見直し、再編縮小、整理統合の方向にあります。そもそも財援団体が直庸職員を採用するのは、その法人固有の業務をやってもらうためです。法人の経営に明るい人を採用するわけではありません。経営に明るくない直庸職員に整理統合させるのは無理があります。

そのことは、市職員の人材育成基本方針とも関連します。長期計画の63ページには「目的意識を持ち自らチャレンジする人材の育成」とありますが、市職員の育成に財援団体を活用するという発想はどこにも出てきません。財援団体の経営をきちんとやろうとするなら、直庸職員ではなく、むしろ市の職員を財援団体に出して経営感覚を身につけさせるほうが、安上がりで、いい人材育成になります。ただ、市から財援団体に人を出すときは、例えば市の係長は財援団体の係長というぐあいに、水平異動になっています。民間は、親会社の係長を子会社の課長で派遣して、親会社にいるときよりも広い範囲の仕事を処理することで能力を身につけさせるという人材育成をしています。

市の監査は、現在、市職員の内部登用者とそのスタッフによって行われているのではないかと私は推測しています。これでは今の世の中では信頼されません。民間の上場会社には、会計監査と業務監査がありますが、業務監査に市民委員の意見を聞くというプロセスがあれば、市民の信頼度が高まると思います。会計監査で公認会計士を依頼すると、年間数百万の費用がかかります。市民委員ならただ同然です。これは一考に値すると思います。

第3回の傍聴者アンケートに、社会的な主流派の価値観がベースになっていて、マイノリティーの意見が吸い上げられていないとありました。私も全くそのとおりだと思います。公募でも無作為抽出でも、この問題は解決しません。例えばこの市民会議のような場で10人の委員を選ぶときには、7人から9人ぐらいまでは公募あるいは無作為抽出で、残りは、私は障害者の親御さんのような人しか思いつかないのですが、市が指名するというのはどうでしょうか。

最後に、市報には広告が一切掲載されていません。少しでも歳入をふやすために、市報に広告を掲載してはいかがでしょうか。市報に広告が掲載されないのは、市がその業者を推薦しているかのような誤解とトラブルを避けるためだと思いますが、ホームページにはバナー広告が掲載されています。市報に広告を出してはいけない理由は特にないと思います。

【B委員】 三鷹市は、市の予算を使って失業対策や、奥さんが仕事を得るための講習会をしています。ところが、武蔵野市は一切ありません。武蔵野市は高収入の人が多から、少数派の人間には予算を使う必要はないと思っているのではないかと想像していました。

もう1つ、「市民の方々の意見を吸い上げて」等々書いてあるのですが、問題意識のない私は、それをするためのシステムがどこにあるのか全然知りません。ごみの分別の仕方を書いた書類が出ていることも知りませんでした。「武蔵野市議会だより」も、どこで入手するのか知りません。市の方は、広報しているつもりになっていますが、市民に届く広報の仕方をしていないのではないかと。自分から進んで市に働きかければいろんな情報を得られるけどそうでない人は情報が得られないという声は、ワークショップに参加した人たちからも上がっていました。

【H委員】 情報提供は重要ですが、伝えたい情報が伝えたい人に届いているのかというと、外国人の

場合、身近につないでくれる人がいない上に言語や文化が違ってしまうと、断絶しやすいんです。行政サイドの広報活動も、情報が流通しているかという観点でみると実は流通していません。単なる広報ではなく、市民参加とか地域の人間関係、お隣さん同士の共助の仕組みづくりにつながる情報流通のシステムを検討していく必要があります。

今回いただいた資料「武蔵野市自治体運営の基本ルール検討委員会 ワーキンググループ報告書」、「武蔵野市市民活動促進基本計画」には「協働」という言葉が出てきます。市民参加、連携、協働が市政運営の基本的な考え方ですが、基本ルール検討委員会報告書の中には、主権者は市民で、政府は公共課題を解決するために市民がつくった道具である、したがって協働という言葉は要らないとありました。公共政策を遂行する上で行政職員はプロです。単に道具と切り捨てていく考え方に私は非常に違和感があります。むしろ公共課題を解決していくために、市民と協働するパートナーであると考えべきです。それぞれのパートをとって、1つのことをなしていけるのが協働の考え方、パートナーシップです。市民だからこそできることと、プロフェッショナルである行政の職員だからこそできることの掛け合わせで、1足す1が3にも5にもなっていくのではないかと思います。

市民活動促進基本計画において協働を推進していくということは、単に市民や団体同士の協働を支援するだけではなくて、行政自体が市民と協働するということです。提案型の協働事業を推進していくとか、行政がともに事業を推進していくという考え方があってしかるべきです。市民参加は言葉はとてもきれいですが、私たちは素人で、個人の考えは時に偏っていて、市政にそのまま反映されるものであるとは思っていません。逆に一人ひとりの声を聞きながら、パートナーとしての立場から、もう少し大上段から捉えて事業化していけるのが、自治体の職員ではないかなと思います。

図書館施策の中の多文化サービスが、ほとんど無視された状況になっています。図書館行政の中で、ぜひ多文化サービスを充実させていただきたいと思います。災害でも生活相談でも、例えば多言語対応デスクを1つ設けて、そこで全ての行政サービスの情報提供ができるようにするのです。そのときに、3人、4人のために1言語の通訳者を置くのは非現実的ですので、財政援助出資団体の中に広域連携行政の仕組みをぜひつくってほしいと思います。

【I委員】 武蔵野市は、広報はよくできていると思います。ホームページは充実しているし、フェイスブックやユーチューブもすぐ立ち上がっているところを見ると、敏感なんだろうなと思いますが、映像のチャンネルは、武蔵野三鷹ケーブルテレビの番組しか出てきません。東京オリンピックに向けて多言語対応していくと思いますが、中身がつまらないとか、熱意が感じられなければ、誰からの反応も得られなくなります。パーツはかなりよくできていて、市報はアーカイブで見られるし、この議事録も多分何年も残っていくでしょう。装置としては完璧なので、あとは、たくさんの人が見るようになれば、広告は勝手に集まってきます。

私は仕事の関係から、地域と一体となった商業施設の成功事例として武蔵野プレイスのことをよく聞かれます。大阪の人からも「どういうもの？」と聞かれました。すごくいいことをやっている感じで捉えられているんです。

トップマネジメントということでは、邑上市政になって10年近くになります。私は中学校の給食はとても助かりました。プレイスもおもしろい。その勢いで中学校給食実施の次は何か、と思いましたが、ぱったりなくなり、どうしちゃったかなという感じです。市長はそろそろ何かおやりになったほうがいいんじゃないでしょうか。

【G委員】 行政と財政一体化ですが、私は公平とバランスというところを慎重にやらなければいけないと思っています。バランスをとりながら濃淡をつけるんです。そのためにも市民一人ひとりの意見を聞くだけではなくて、市民一人ひとりが話し合う場を設定してほしいと思っています。市民自身がいろんな政策提言をして、必要な政策もしくは理想が行政と一致したら、お金がかけられる部分、かけられない部分を出して、優先順位をつける。そこの合意形成が、市の施策に反映されていくべきではないでしょうか。

先ほどHさんは、道具と書いてあるのはおかしいと言いました。私も前回、パートナーシップじゃないのかという話をした。資料を見ても、いろんなことをやったださっていることはわかります。私が出したアイデアで、既にやっているのに広報が足りなくて知らなかったことがあるというのもわかりました。でも、何かちぐはぐなんです。

哲学として、このまちが一体どうなっていくべきなのか。保育園だけふやしたって、その先のところで生活が成り立たなければ、転居せざるを得ない。幾らコミュニティといったって、住み続けられるまちでなければ、コミュニティは形成できません。人が住み続けられるためには何が必要なのか、どうすべきなのかで濃淡がついてくる。外国人も住み続けられるようにするにはどうすべきなのか。要するに、人が生きていくためにはどうすべきなのかです。

公共施設などの都市基盤は、人が使わなければ全然意味のないものです。人がどう使うのかということを考えるためには、いろんな人の意見を聞いていくことです。障がい児の保護者や介護している方は、物理的な時間がなかなかとれません。私は、周知して意見を求めるだけではなく、調整計画策定委員会においても、委員には当事者のところに赴いて意見を聞くという姿勢が必要だろうと思っています。

前回も言いましたが、理念や目的、哲学を市民が認めてくれたのであれば、お金はどんどんかけていいと思う。でも、そういう広報は何もない。いろんなことをやったださっていても、全て思いつきの行き当たりばったりで、せっかくのいろんな施策が結びついていかない。市長選挙の後に調整計画があるというのはシステムとして知っています。でも、私は、まちに必要なのは、1人の個人的な哲学ではなくて、市民全体の哲学だと思う。その哲学をつくるには時間がかかりますが、考えなければいけないことだと思えます。

【J委員】 基本施策1の市民公募というのは、まさにこの市民会議の10人のことだと思えます。私は知らないことがたくさんあったということがよくわかりましたし、専門的なお話や、いろんな経験をされている方々のお話を聞いて、本当に勉強になりました。ここに来たこと自体が本当にうれしいです。もっといろんな人たちの話を聞きたいし、次の5回目で終わってしまうのが悲しい。みんなで行って、皆さんとざっくばらんにいろいろお話しできたらとも思っています。ただ、今回のこの市民会議では、結局は行政の方と我々の1対1の対話が10個あるだけという感じで、それがすごくもったいない。もっと委員の間での議論があってもよかったのかな、という思いがあります。前の策定委員会でも、市民の公募の方々がいらっしゃるはずですが。どういう話し合いをされたのか、過去の委員がどのように現状を感じているのか、同窓会みたいな感じで過去の委員と現在の委員が交流し、課題を共有する場があってもいかもかもしれません。ともかく、この集まったこと自体をきっかけとできるような場として機能するといいなと思っています。

市民公募で集まる人たちは、意識も高いですし、そういった方々同士をつなぎ合わせるようなものがあるほうがいい。無作為抽出の方、市が指定したマイノリティーの方、みんなが一堂に会して、島に分かれてディスカッションするような意見交換会をしていければいいのかなと思っています。

協働の件では、私は、行政の職員の方々はエキスパートがそろっているのに、なぜこんなに卑屈で下手に出ているのか、何かの戦略なのかといぶかってしまうほどでした。今、行政はリスクヘッジをとります。1つでも反対意見が出たら潰れるし、懸念材料があれば事前に自己規制をかけてしまう。それではもったいない。行政の人たちで勝手に進められても困るのですが、こちらに全部任されても困ります。そこは協働という言葉が私は一番しっくりくると思っています。

【D委員】 武蔵野市において、公共施設の数をやささないかわりに、質を高めるため、市の中で1つだけあればいいもの、三駅圏の中に1つずつあればいいもの、小学校学区に1つずつ必要なものという施設整備をされていると伺いました。参考資料「武蔵野市公共施設白書」の35ページ、施設別の利用件数では、市民課窓口、吉祥寺市政センター、中央市政センター、武蔵境市政センター、自動交付機等のうち、一番多いのが市民課の窓口で、一番少ないのが、夜間開庁している中央市政センターとなっています。1日当たりの件数は、吉祥寺や武蔵境の市政センターのほうが多いのですが、この2つは夜間開庁や休日開庁はしていません。ここで行政の意図しているところと実際の利用者のサービス、潜在的なニーズという点で、ずれが生じています。せっかく統計資料からわかりやすく問題が上がってきているのですから、利用者にとって利用しやすい体制の検討と検証をしていただきたいです。

昔は、コミュニティセンターの所轄をさせていただいていたのは市民協働推進課でした。今は市民活動推進課に名前が変わりました。名称変更について、古くからかかわっている人たちの中には、一緒にやる気がなくなっているのではないかと皮肉を言う人もいます。名称を変えるときには、関係団体や市民の意見も聞いてほしいです。個人的には、市民活動推進課よりも協働推進課のほうが武蔵野市らしかったのではないのかなと思っています。

逆に、「武蔵野市自治体運営の基本ルール検討委員会 ワーキンググループ報告書」は、自治基本条例ができることで市民や議会が活性化し、武蔵野市の自治の推進が期待できるものでした。「市議会だより」No.353号にも、自治基本条例に関連した質疑が紹介されています。条例制定の背景には、首長の主導という回答が最も多いことから、市長には今後とも独自性を発揮していただいて、首長のリーダーシップで武蔵野市の自治をもう一步進めていただく市政運営をしていただければと思います。

【F委員】 私が大事だと思うのは、人と人がつながって情報は伝わっていくということです。障害のある人のところに出かけて行って話を聞くのも、人がつながりに行くということです。私は行政の人が月に1回でもコミュニティに来て、コミュニティで活動している市民と話をしてほしい。相談事があれば、市役所のどこかにつないでほしいし、そうでなくても市民といろんな話をしてほしいです。

人と人が交流する中での情報をベースに、まちの人のつながりができ上がっていくのは、すてきなことです。私はそれを目指したい。そういうことに資する活動につながっていくことで、エネルギーやお金を注いでいくための判断があらわれてくると思っています。

先程のワーキンググループ報告書の中に書かれている協働は、市民と行政の職員のあり方について、対等なパートナーシップという言い方ではなじまないのではないかと、ということだと思います。私は、市民活動をしていて、行政の人に相談するし、力もかしてもらいます。私たちのできることもします。これが協働だと思うんです。でも、それは協働というものの定義を考えると、ちょっと違う。そこを書いているのではないかと思うので、市民と行政の職員が一緒にいろんなことを話し合っ、つながって、考えていって、よりよいやり方を目指していく。そういうことをベースに据えればいいのではないのでしょうか。

私は、市の職員の方たちに、もっとよい仕事をさせていただくために、幾つかのことを考えました。

1つは、市に勤めているいろんな経験をする中で、15年たったら、自分のしたい仕事の部署についてもらおう。30年たったらもう一遍、したい仕事についてもらって、ご自分の市役所での仕事の総仕上げみたいなことをやってもらう仕組みがあるといいのではないかな。

2つ目は、市役所は、世の中の企業の先陣を切って、人の働き方のモデルを目指すということをやっていますので、フレックスタイム制とか短時間勤務制度の検討を進めていただきたいと思います。

3つ目は、昔は外から見ていらっしゃるだけでしたが、最近は、行政の人がワークショップの輪の中に入る形がふえてきました。市民と対話して、意見を求められれば、私はこう思いますみたいなことを言う、そのような一緒に話をする機会はどんどんふやしていただきたい。

4つ目、先輩がフォローする仕組みをつくる。今、どこの自治体も学校も、メンタルヘルスの課題があって、しんどくなる職員がふえています。先輩がきちんとついてサポートし、話を聞いて、必要があればどこかにつないでいくというフォローの仕組みが必要です。

5つ目に、専門職が嘱託という位置づけで雇用されています。非常に高い専門性を持った人に勤務していただいても、その方に続けていただくことができません。例えば、学童の指導員も、かわっていく率が高いそうです。これは専門職で働く人の待遇の問題もあると思います。働いてもらってよかったといういい人材が、続けて仕事できる形をとるには、今の嘱託という雇用のあり方が必ずしもいいとは思えません。

最後に、長期計画の62ページに「市政の中で重点的にすすめてほしい施策の順位」があります。私のかかわる分野の障害者福祉の推進は、3年続けて15位です。これは当事者が少ないからではないでしょうか。高齢者であろうが障害者であろうが、必要な人のところに必要な人がつながって、支えて、一緒に生きていけるまちをつくる。そう考えると、この調査と結果の示し方に、私は違和感を覚えます。

【C委員】 市民の市政運営の参加の拡大についてです。私が今回この市民会議への応募をしたのは、無作為抽出のワークショップに参加したことがきっかけになっています。このような取り組みは、市政に興味になかった私のような市民一人ひとりを導き出すきっかけとなりますので、地道に続けていってほしいです。参加して思うのは、行政と民間の区別がつきにくい要望があること、こんなことまで行政がやるのかということです。これから税収や国からの補助金などが減額していく中、民間でもできることをあえて行政がやることはないと思います。必要不可欠な施策に的を絞って、検討していただきます。市民自身も、社会的弱者を除いてですが、自分のことはある程度自分で責任をとるという認識を持つことが重要です。東日本大震災では、もしものときの自己防衛手段を考えることの必要性を痛感しました。

財政援助出資団体、市民活動団体やNPO団体などに補助金が出ていますが、本当に必要不可欠な団体なのか、見定めて援助をしていくほうがいいと思います。

基本施策3の中の「市民にわかりやすい予算の公表」ですが、「季刊むさしの ナンバー106 2014年春号」にあった予算案と施策の記述は、この分野に疎い私にも、とてもわかりやすかったです。

リスク管理では、危機発生時の業務継続マネジメントと業務継続計画が、行政の仕事ではとても重要だと思います。システムがとまり、担当職員の不在で業務が滞っても、早く復旧させる手順を、あらかじめシミュレーションして、問題解決の方策を立てていってほしいと思います。

最後に、「第四次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針及び武蔵野市行財政改革アクションプラン」の中に、現在の法制度は間接民主主義であって、直截的な市民参加の手法も必要なのではない

かという一文を見つけました。武蔵野市がこうした見解を持っているのは、とても尊いことです。それが市長や市議会議員、職員の交代などにより変わることはないよう、不変の理念として持ち続けてほしいと思います。

【企画調整課長】 協働の発想となったのは、市民活動団体としての市民と捉えたスタンスだと思いますが、自治体運営の基本ルールの報告書の中では、主権者としての市民と捉えています。

【総合政策部長】 非常に示唆に富んだ発言をいただいたと思います。市の職員として今後しっかり考えていかなければいけないというご指摘を受けたことは、全庁的にもきちんと伝えていきたいと思います。

4. その他

(1) 次回（第5回）について

（第五期長期計画・調整計画市民会議報告書イメージ案の概要を説明した。）

【F委員】 次回に、各回で話し残した部分を発言する機会があつて、調整計画のほうに伝わる形で報告書をつくっていただければ、私は異存はありません。

【企画調整課長】 今回は8月7日、場所は811会議室です。
ありがとうございました。

閉会（午後8時58分）